

日本語教師【初任】(難民等) 研修の教育課程編成の目安 (案)

実施機関 : 大学等日本語教育機関・団体, 地域国際化協会, 地方公共団体等

想定単位時間数 : 60 単位時間 ※ 1 単位時間は 45 分以上とする。

教育方法 : 集中的に実施する研修のほか, 初任としての期間において, OJT を含め, 組織的に複数年にわたって研修を行う場合, 集合研修を複数回に分けて行う場合なども想定される。具体的な教育方法については, 事例研究, 問題解決学習など, 主体的・協働的に学ぶ機会を取り入れることが求められる。

教育内容	単位時間数	科目名 (例)
(1)世界における難民等の現状 (2)日本における難民等の現状 (3)日本の難民等受入れの経緯と基本的な受入れ方針及び受入れ体制等 ・インドシナ・条約・第三国定住難民 ・中国帰国者 ・その他, 特別な背景により在留を認められた者	4~8	1. 世界・日本の難民等の現状
(5)難民等の多様性 ・言語背景, 文化的背景 ・日本での言語使用目的・環境 (8)難民等の異文化受容・適応 ・異文化間トランス	4~8	2. 難民等の異文化受容・適応
(4)難民等に対する日本語教育 ・インドシナ・条約・第三国定住難民に対する日本語教育 ・中国帰国者に対する日本語教育	4~8	3. 難民等に対する日本語教育
(9)学習者要因 ・学習動機と学習継続意識 (10)言語習得と言語喪失 ・バイリンガル (11)教育・発達心理学 ・特別支援のニーズ ・適応障害 ・PTSD, ト라우マ	4~8	4. 難民等の言語習得と言語教育

<p>(6)難民等の社会参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援関連情報 ・エンパワーメント <p>(7)難民等のライフステージに合わせたキャリアプランと日本語学習</p>	8～16	5. 社会参加のための支援
<p>(12) 演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象別指導法 (初等教育未修了者に対する日本語教育, 生涯学習としての日本語教育等) ・教室活動 ・実習 (授業・教室活動への参加や参与観察, 支援活動) ・教材作成 ・評価及びフィードバックの方法 ・自律学習 ・課題の共有(対支援関係者) ・経験の振り返りや議論等を通じた内省力の強化 (経験や他者を通して共に学ぶ力の育成) <p>(13)難民等のための教材・教具のリソース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信, eラーニング, ICTツール(SNSなど) <p>(14)異文化調整能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家以外に対する学習者の日本語能力の伸びや変化等に関する説明 	16～40	6. 難民等に対する日本語教育の教育実習と評価
60単位時間		

※全科目の下限の時間数を合計すると 40 単位時間となる。60 単位時間までの 20 単位時間分は、単位時間数の幅を生かすことにより、各研修実施機関における特色ある研修プログラムを編成することが可能である。